

視察成果報告書

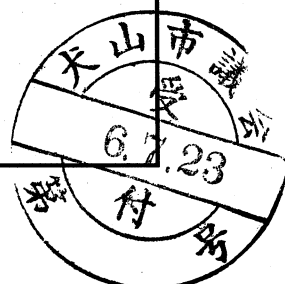
令和 6 年 7 月 22 日

犬山市議会
議長 柴田 浩行 様

議員名 畑 竜介

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和 6 年 7 月 19 日(金) ～ 令和 6 年 7 月 19 日(金) (日帰り)
(2) 視 察 地	東京都狛江市
(3) 視察の種類	議会だより編集について
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	別紙
(5) 犬山市に 対する提言	別紙



○狛江市概要

人口は80,417人と犬山市と同規模であるが、市の面積は6.39km²で全国2番目に小さい自治体であり、人口密度も高い。

1級河川多摩川を挟んで神奈川県と隣接しており、犬山市と似ているところもある。

○議会だより(G.G(ギカイガイド))について

令和3年6月1日号から、市議会だよりを「G.G(ギカイガイド)」へリニューアルされた。

以前は字が多く、議会で決まったことを報告として書いてある、よくあるタブロイド紙で発行していた。

より多くの市民に見ていただけるような紙面づくりの為、令和元年10月より「こまえ市議会だよりモニター制度」を設立。

広報委員会のメンバーと10人のモニターの市民と共に東京都あきる野市へ行政視察に行かれて、大きなリニューアル前にも写真を増やす等のマイナーチェンジは行われていました。

令和2年にはモニター制度とは別に、議会運営委員会の中に議会だよりに特化した小委員会を設置され、翌年6月のリニューアルへとスピード感のある展開でした。

リニューアルにあたってはデザイン費として100万円超の予算増になってはいるが、市民からは好評であるとの事。

○リニューアルのポイント

① ターゲットを明確にする

現在、政治や市政から一番遠い方々をターゲットとし、「G.G」が議会のすべてを伝える紙面ではなく、エントリーペーパーとしての位置づけ。なるべく字を少なく、詳細はQRコードで飛べるように工夫している。

② コンセプトを明確化する

「とってもらう」「みてもらう」「よんでもらう」の3つを基本コンセプトとし、紙面構成にデザインの概念を取り入れ、簡単な言葉や文字で親しみやすい紙面づくりとしている。

③ 議員個々の個人的な側面「一問一答」の掲載

「人から言われた大切な言葉は?」「休日の過ごし方は?」「あなたが危機管理として行っていることは?」などの質問に対して、全議員が50文字以内で答えるコーナーがあり、議員の人としての側面が見え

市民からは大変好評との事。一方で答える議員側からは50文字以内や毎回のテーマについて色々と意見も出ているようだが、リニューアル時に作った基本コンセプトやG.G編集方針に則って調整をしながら進めているとの事。

一方で、この「一問一答」が政治活動の場にならない様に、議長や委員長、事務局とも丁寧に議論を進めながら、公平性・正確性・客観性なども注視しているとの事。

○これからの議会の手帖について

リニューアルをすることを目的とせず、本来「議会の手帖」とは何を伝えるべき物なのか。また、市議会として誰に何を伝えたいのか。現在の世の中の状況も考えながら、「議会の手帖」のコンセプトを作るべきと考える。

そして、そのコンセプトを基に紙面のデザインや編集方針を確定させ、委員会のメンバーが変わっても市議会広報委員会としての方向性を示せるようにすべきと考える。